

音楽科学習指導案

日 時 平成 23 年 11 月 11 日 (金) 1 校時
会 場 第二音楽室 (南校舎 4 階)
生 徒 2 年 5 組 (男 16 名, 女 17 名, 計 33 名)
授業者 柿崎 倫史

- 1 題材名 「音楽の構造を聴き取ろう」
学習材名 「交響曲第 5 番ハ短調 第 1 楽章」 (作曲: L. V. ベートーヴェン)

2 題材について

(1) 学習者観

- ・一年次は「春」(A. ヴィヴァルディ)「魔王」(F. シューベルト)を、イメージを膨らませたり、音色や旋律の変化に着目して聴き、曲想や特徴を味わった。主観的な印象や感じたことは語彙豊かに表現できたが、客観的な視点で根拠を持って言葉で表現することが課題であった。
- ・二年次は「フーガ短調」(J. S. バッハ)の鑑賞で、パイプオルガンの荘厳な音色や、主題が重なり合いながら発展するフーガ形式の特徴を学習した。形式に着目して、音楽を分析的に聴く際に、興味・関心にばらつきが見られ、やや受動的な学習となった。

(2) 学習材観

- ・ベートーヴェンの「交響曲第 5 番ハ短調 第 1 楽章」は、ソナタ形式で見られる主題が反復したり変化したりしながら発展していく「主題展開」と、動機を積み上げていくように楽曲を構成していく「動機労作 (Motivisch-thematische Arbeit)」の二つの特徴をととも分かりやすく聴き取ることができ、形式を学ぶ学習材として適している。

(3) 学習指導観

- ・本題材は学習指導要領の以下をねらい設定した。

B 鑑賞	(1) ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、 根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと
[共通事項]	(1) ア リズム 旋律 形式 構成

- ・本題材では生徒たち自らが形式を紐解くように指導したい。
- ・まず「交響曲第 5 番ハ短調 第 1 楽章」の主題提示部をとりあげる。第二主題が登場するホルンの動機を境に、前を「A」、後を「B」とする。生徒に「AとBの違い」を問い、特徴や雰囲気を知覚させ、その理由まで述べさせたい。次いで、「AとBの共通点」を考えさせ、繰り返されている「動機」の存在を生徒自らの力で発見させたい。
- ・次に、展開部、再現部、コーダまで聴取を深め、ソナタ形式の特徴を捉えさせる。ソナタ形式の特徴を自分なりの言葉でまとめ、今後音楽の形式を意識して鑑賞できるようにさせたい。

(4) 研究とのかかわり

- ・教師から生徒へ一方的に物事を教え込むのではなく、生徒たちがいきいきと活動に参加しながら学んでいく姿を求めた。鑑賞の時間は生徒が受動的になりがちだが、聴き取ったことを仲間と対話しながら、動機や形式の特徴を「発見」していくように授業を計画し、生徒をテキストである音楽・学級の仲間である他者・そして生徒自身とをつなげることをねらっている。
- ・一時間目に聴く対象を主題提示部に絞ることで、「じっくり考える活動」を可能にした。
- ・「協同的な学び」を通して、他者の聴き取る力に感心したり、自分の聴き取った内容を言葉にして交流することで、考えをより深めることができると考えている。

3 題材の目標と評価規準

観点	観点1… 音楽への関心・意欲・態度	観点4… 鑑賞の能力
目標	「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の音楽を形づくっているリズム，旋律，形式，構成や構造と曲想との関わりに関心をもち，聴く活動に主体的に取り組む。	「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の音楽を形づくっているリズム，旋律，形式，構成を知覚し，それらの生み出す特質や雰囲気を感じながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりを理解して聴き，解釈したり価値を考えたり，根拠を持って批評したりして，よさや美しさを味わって聴く。
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の音楽を形作っている動機やソナタ形式による主題の反復・変化，各部の移り変わりや構造と曲想との関わりに関心をもち，聴く活動に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の音楽を形づくっている動機やソナタ形式による主題の反復・変化，各部の移り変わりを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 知覚・感受しながら，「交響曲第5番ハ短調」の音楽を形づくっている動機やソナタ形式による主題の反復・変化，各部の移り変わりや構造と曲想との関わりを感じ取って，解釈したり価値を考えたりし，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

4 学習指導計画（全2時間）

（1）動機の発見と，ソナタ形式の理解

（2）

- ・ 主題提示部の前半と後半の比較聴取による，二つの主題の捉えと動機の発見（1）[本時]
- ・ 主題提示部，展開部，再現部，コーダを俯瞰し，楽曲全体の構造を理解する（1）

5 本時の指導 (1/2)

(1) 目標

- ・主題提示部の第一主題部と第二主題部の旋律やリズムの特徴の違いと共通点を知覚し、それらの働きによる特質や雰囲気を感じながら、動機の連続で曲が構成されていることに気づく。

(2) 展開

【既習の学習】			
・「フーガト短調」(J. S. バッハ)で主題が重なっていくフーガ形式の特徴を学習した			
学習活動	学習内容	指導のための工夫	評価の視点・方法
1 共有の学習活動を把握する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」を通して聴く ○ 主題提示部を聴き、第一主題部(A)と第二主題部(B)を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聴かせながら生徒たちの反応を見る ○ ホルンの動機を境にして、第一主題部と第二主題部をそれぞれA, Bとして捉えさせる。 ○ AとBの境が視覚的に分かるようにICT機器を活用する ○ 発問「AとBの違いはどんなことがありますか」 	<p>[音楽への関心・意欲・態度]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 課題を捉え、積極的に聴く活動に取り組んでいる。 </div> <p><観察> A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律や雰囲気の違いに関心を持ち、ワークシートに書き込んでいる。
AとBの違いを聴き取ろう			
2 共有の学習課題を追求する	<p>【協同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学び合いの活動の後主題提示部を聴き、前半と後半の雰囲気の違いを知覚・感受する。 <p>【表現と共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 挙手発言し、考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4人グループでワークシートを持ち寄り記入させ、それぞれの考えを共有させる。 ○ 発言内容を板書してまとめる。 	<p>[鑑賞の能力]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 旋律の違いを捉え、ワークシートに音楽の特徴を適切に言葉でまとめている。 </div> <p><ワークシート> A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調の移り変わりに気づいている。 ・ 楽器の音色に着目している。
3 ジャンプの学習課題を把握する		<ul style="list-style-type: none"> ○ 発問「AとBで、共通することがあります。聴き取ってみましょう。」 	
AとBの共通するリズムを聴き取ろう			
4 ジャンプの学習課題を追求する	<p>【協同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「リズム」をヒントにジャンプの課題に取り組む。 <p>【表現と共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 挙手発言し、考えを共有する。 ○ 「動機」と「主題」について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「リズム」というキーワードを紙板書で提示し、グループでの学びをスムーズにさせる。 ○ 個人を挙手発言させ、考えを板書にまとめる。 ○ 「動機」「主題」について音楽を聴かせながら名称と特徴を教える。 	
5 課題を振り返り言葉でまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに記入し、本時のまとめとする。 		
【次時や別題材での学習】			
・ 「交響曲第5番 第一楽章」の展開部、再現部、コーダへ聴取を広げ、ソナタ形式のよさを味わう			